

この作品は新約聖書の中の『ヨハネの黙示録』を描いたものです。七人の天使が、ラッパを吹き、災いをもたらします。この場面は第4の天使までの災いが描かれています。

### 第1の天使の災い

血の混じった雹と火が地上に落ちた。すると、地上、木々の3分の1が焼け、全ての青草が焼けてしまった。

### 第2の天使の災い

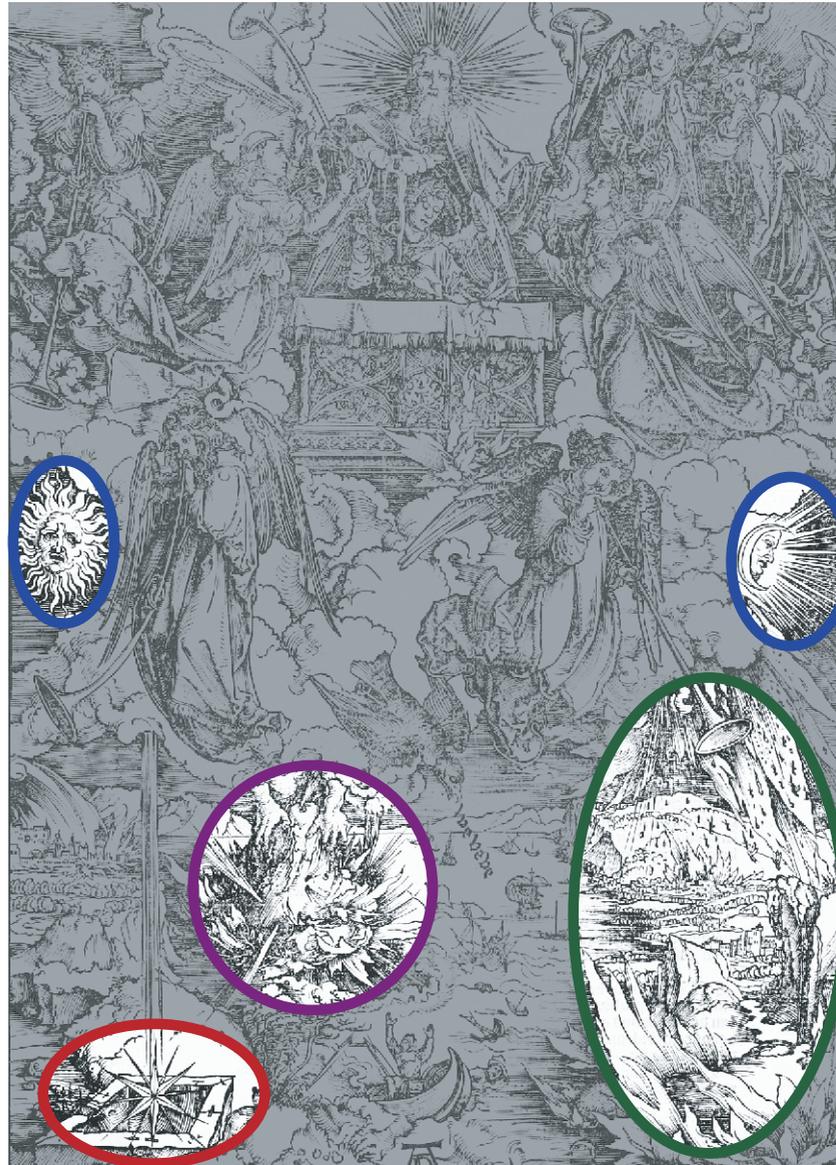
山のように大きな火の塊が海に落ちた。すると、海の3分の1が血に変わり、海の生き物の3分の1が死に、船の3分の1が壊れた。

### 第3の天使の災い

燃えている大きな星が川の水源に落ちた。すると、毒が流れ込み、その水を飲んだ人々を死に至らしめた。

### 第4の天使の災い

太陽と月と星の3分の1が欠けた。すると、世界が暗くなった。



『黙示録』でデューラーは、いくつかの場面を同画面に描いたり、省略したり、自由な解釈を加えています。

ほかにも...

**ラッパ**  
戦争・恐怖・死をあらわし、天使が罪人を処刑するとき吹くといわれています。

**ワシ**  
この世の破滅を知らせる鳥であり、この絵では、「不幸だ」と嘆いています。

**血**  
生命の象徴

**雹**  
贖罪による恐ろしい審判

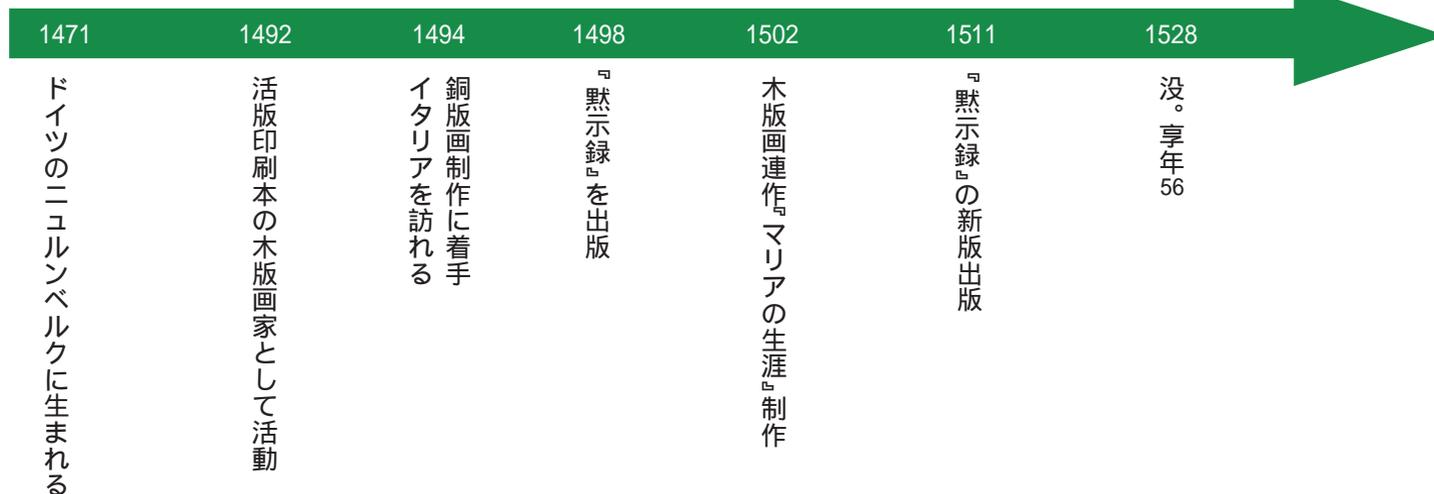
**炎**  
宗教的な熱情の象徴

などがあります。

この解説は読解の一例です。

参考文献  
・『聖書新共同訳』日本聖書協会 2004。  
・『シムス・ギール』西洋美術解説事典 解—絵画・彫刻における主題と象徴—。河出書房新社 1988。  
・『土井かある』よくわかるキリスト教。PHP研究所 2004。  
・『遠藤周作』キリスト教ハンドブック。三省堂 2002。  
・『デューラー展』デューラー展実行委員会、1992。  
・『新潮世界美術辞典』新潮社、1985。

## デューラーの生涯( 版画を中心に )



『自画像』 油彩 1500年

## デューラーの『黙示録』とは

本作品の主題「黙示録」は、キリストの弟子、ヨハネが、神の啓示を受けてこれを著されたとされています。

神の怒りによる、邪悪な者の滅びと信仰の勝利が、ヨハネの幻視として語られています。

1498年、当時27歳だったデューラーは全16葉からなる「黙示録」を書物の体裁で初版を出版しました。

表に木版画、裏は聖書の文章が刷られています。

デューラーは内容を図像化するにあたりいくつかの場面を同時に描いたり、省略したり、大胆で自由な解釈を加えたりしています。

今回展示されている「黙示録」の《7つのトランペット》という作品はでは「黙示録第8章」の場面が複合的に描かれています。

## デューラーの木版画の独自性

デューラーの「黙示録」はそれ以前に作られた木版画に比べ、あらゆる面で抜きん出ているばかりでなく、美術史上でも他に見ない独自性を持っています。

作品の大きさ: 当時の版画は文章の一部にはめ込まれることがほとんどでした。「黙示録」の大きさは縦40センチ横30センチです。

これは当時の紙漉き技術や版木の事情からして考える限り最大の大きさです。

出版物としての特異性: 通常、版画を書籍の挿絵とする場合、版元が下絵師、彫り師に依頼して作っていました。

しかし、デューラーはそれらを全て行いました。

木版画としての革新性: それまでの木版画で描かれる線は、物の輪郭線やエリアの境界線でした。

しかし、デューラーは木版画ですばらしい立体感を表現しました。これは旅行で訪れたイタリアルネッサンスの影響でした。

これにより、デューラーはヨーロッパ全域に名声を得ることになりました。